



オリーブ通信

2021年
12月号
2021.12.11.発行
第238号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>

あたらしい仲間を紹介します



ペレイラ.D.C.Jr・ロジェリオ
(ブラジル)

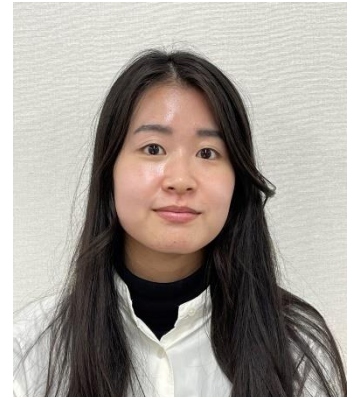
オリーブで日本語が上手になって、いろいろな友だちをつくるつもりです。一緒にがんばりましょう。

あたらしい先生です



わたなべ ひろみ 先生
渡辺 裕美 先生

外国の学習者さんと簡単な日本語で、いろいろなお話をするのが大好きです。



たかはし みやこ 先生
高橋 都 先生

色々な国の方と交流してみたかったので入会致しました。わかりやすい説明がんばります。

中川先生のへんてこ日本語 おなかいっぱいになった

135



「おなかいっぱいになった」と、電車の中で女子高生が話しているのを聞いた。なにも「おなかがいっぱいになる」のが悪いわけではないが、この表現に思わず「ニヤリ」としてしまった。

「きれくない」はよく耳にする。日本語には、「い形容詞」と「な形容詞」があつて、その否定形は、前者なら「大きい↓大きくない」「おいしい↓おいしくない」「面白い↓面白くない」となる。後者なら、「元気な↓元気がない」「新鮮な↓新鮮じゃない」となり、「きれいな」は、「な形容詞」だから、「きれいじゃない」となるのが、規範である。

しかし「きれいな」を「きれい」という「い形容詞」のように考え、「きれくない/きれくなる」とするのは、「過剰般化」と呼ばれる現象である。さらにステップアップして範囲を拡げたのが「いっぱいくなる」「はんとくくない」(反対じゃない)であろう。

実は、「ら抜きことば」と呼ばれる、動詞の可能形も、「過剰般化」と考えてよい。「書く↓書ける」「読む↓読める」のグループI(五段動詞)の規則を「見る↓見れる」「食べる↓食べれる」と、グループII(一段動詞)にも適用したものと考えられる。

もはやこうなつては、すべてが「般化」の方向へと進んでいきそうである。「やばい」が良好な結果を表したり、好ましくない結果を表したり、「だいじょうぶ」が意味範囲を拡げたりするのも、このタイプであろう。

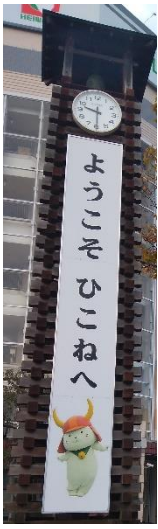
こうなると、言葉の持つ意味だけではなく、その場の雰囲気や会話の流れから意味を察していくしかない。世代間でことばのやり取りにギャップが生じるのは、話題に同調できないからかもしれない。

こんなことを書いているうちに今日はもう紙面がいっぱいになった。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

2021年 オリーブ 遠足

秋の城下町 彦根へ!



オリーブ恒例の遠足。今年は11月14日(日)、秋の城下町・彦根へ紅葉を見に行きました。お天気にもめぐまれ、参加者は27名でした。

朝9時に草津駅集合に集合して彦根へ。彦根城は駅から見えるほど近いので

たやすくお城にたどり着けるかと思いきや、彦根城は西軍が攻めてきたときに

防衛するために建てられた城。侵入した敵を城から攻撃できるように城までの道は曲り角が多く、きつい坂の階段は油断すると縁石に足をとられてよろけてしまいます。コロナ禍で運動不足の私たち

にはキビしい試練でした。

しかし参加者最年少の3歳の

男の子もお母さんに手をつないでもらって階段を一段一段登っています。ここで大人が弱音を吐くわけにはいきません。

殿様はこんな大変なところ登らないよね、籠か馬に乗ったんだろうなあなどと考えながら、やっとこさお城の入口までたどり着いたときには、もうすでに明日の筋肉痛の予感が…。

お城の中に入ると、ここは居城ではなく城塞。幅の狭い、階段を一列になって上らなくてはなりません。ウィキペディア

によりますと「敵が中に攻め入っても、階段を上がってくる敵を、上から突き落せるように急な角度(62度)になっている。

梯子のような階段は、ただ上の小さな掛かりが掛かっているだけで、敵が登らんとすれば、蹴って階段を落とせる構造となっていた。」ということです。

お城の最上階は見張り用なので意外と狭いですが、彦根の町が見渡せます。琵琶湖も見え、2024年の国民体育大会のために建設中のスタジアムも見えます!

さて、景色を展望して一息ついたら恐怖の下り。

梯子に近い急な階段を降りていくのは、かなり勇気がいります。この感覚はお城見学というより登山に近いのでは…。

お城の次は隣にある玄宮園へ。井伊家自慢の大名庭園だけあって池を中心に起伏にとんだ造園が見事です。秋の庭園で皆たくさん写真を撮りました。コロナ禍でずっと外出の機会がなかったのが、久々に仲間と一緒に旅行気分を満喫した一日となりました。(エンドウ)



参加者の感想

・遠足に参加させていただいて本当に楽しかったです。いろいろなことを勉強しました。彦根城に行って他の国の人と話して友だちができました。

・日本に来て5年目になりますが、初めて皆さんと一緒に遠足に行って本当に楽しかったです。彦根城の歴史を知ることができました。

・長い階段を登って帰宅したら筋肉が痛かったですが、いろいろな歴史が勉強できました。いい体験になったと思います。

・いつもは家族と一緒に日本のあちこちに行きますが、今回、いろんな先生やいろんな国から来た友だちと一緒に行ってすごく面白かった。3歳の息子を持って行ったので、みなさんのお世話になりました。ありがとうございました。

・琵琶湖がきれいでした。

・遠足は、ほんとに楽しかったです。琵琶湖や古い家などいろいろきれいなところを見ました。今年、初めて遠足に参加しましたが、楽しかったです。

・お城の階段が急だったので怖かった。

・子供たちと一緒に参加しました。楽しかったです。残念ながら紅葉はまだ100%ではありませんでした。たぶん二割だけでした。オリーブの先生と城を見て昼ご飯も食べて面白かった。来年も遠足に参加したいです。

・彦根城に行ったのは初めてです。お城はきれいで面白い建築でした。昼ご飯におすしを食べておいしかった。きれいな景色も見られて、いい体験になりました。またチャンスがあれば遠足に行きたいです。





先月の活動 (11月)



今月の活動予定 (12月)

日本語教室 11/6(M),13,20,27 (4回)
くさつラウンドテーブル 11/1(月) (恩地・内田栄)
秋の遠足 11/14(日) (27名)

日本語教室 12/4(M),11,18,25 (4回)

- 日本語教室の(M)は定例ミーティング
- ()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数 (11月)

	11/6	11/13	11/20	11/27
学習者	24	27	26	29
先生	22	23	23	28



会員の動き

〈入会〉 渡辺 裕美
高橋 都
〈退会〉 なし
〈休会〉 なし

2022年から外国人の就労が無期限に？

特定技能の対象 14分野

- ・ 介護
- ・ 建築
- ・ 造船・船用工業
- ・ ビルクリーニング分野
- ・ 材料加工業
- ・ 産業機械製造業
- ・ 電気・電子情報関連産業
- ・ 自動車整備
- ・ 航空
- ・ 宿泊施設
- ・ 農業
- ・ 漁業
- ・ 食品・飲料製造業
- ・ フードサービス産業

長期就労可

11月18日に日本経済新聞などで報道されましたが、出入国在留管理庁は人手不足解消のためにアジア圏の外国人の受け入れが認められている特定技能14業種について2022年にも在留期限をなくす方向で調整をはじめたということです。

今の制度では特定技能14業種で働く外国人労働者は、まず「技能実習生」として来日し最長5年働けます。5年、実務経験をした後、業務についての知識や日本語能力を技能試験等で確認し、一定の基準に達していれば、「特定技能1号」になって、さらに5年日本で働き続けることができます。これで合計10年働けます。しかし特定技能1号で5年滞在した後、さらに就労期間を延長したければ「特定技能2号」をとる必要があります。2号になると専門の知識や技能を持った人材として就労期間更新や家族帯同が可能になります。

現在、特定技能2号が取れるのは「介護」と特に若年層が減って人材不足が深刻な「建設」「造船・船用工業」に限られています。今回の変更は、この特定技能2号を他の12業種でも取れるようにしようというものです。コロナで仕事を失った人たちが求職している今の状況下で、このような変更

がされるといことは、これらの業種によほど人が集まらないのだと思います。業種によっては日本人より外国人の方が若くよく働くからという事情もあるかもしれませんが。しかし相応の給与がもらえるなら、日本人でもこれらの仕事に就く人がいるのでは？ 経費、人件費を抑えて安く商品やサービスを提供するというのが従来の日本式経営ですが、高付加価値の新しい製品を生み出す余力もなく、この30年他国の所得が増えている中で日本だけが横ばいです。サービスも商品も労働力も使う側からしたら安い方がいい。でもそれでは働く人の給与は増えようがない。日本人の貧困問題が解決されず、アジアの経済発展が続けば、いくら就労期間を延長しても仕事を覚えたらもっと条件の良い国に転職されてしまうのでは…。 (エンドウ)